



みよし

令和2年10月26日

文責 久保島 修

今、想うこと・・・「ピンチはチャンス」に「ピンチはチャレンジ」に！

右の歌詞はジブリ映画のテーマ曲の一部です。コロナのせいにして、やめてしまうのは簡単です。でも工夫の余地があるならば、創り出すことに、新しい景色を映し出すことにチャレンジしたい。そう思わせてくれます。

令和2年度が始まって半年が過ぎました。今まで誰も経験したことがない半年でした。今年度の計画を全て変更せざるを得ないそんな状況の4月、5月でした。しかし、『下を向かない底力』のもと、様々なピンチをそれぞれの活動の意義を確認するチャンスととらえ、職員一丸となり、子供たちの笑顔・元気のための方法にチャレンジしてきました。

分散登校が始まり子供たちの命を守るために、いち早くコロナウィルスについて正しく理解するために、養護教諭を中心に「保健指導」や「三密を避けるための指導」を行いました。避難訓練や歩行訓練、自転車教室など命にかかわる学習は形を変えて実施しました。

また、1年生を迎える会も全校が集まって行うことはできませんでしたが、6年生を中心にたて割班ごとに歓迎の気持ちを表す方法を考え実施しました。久しぶりに学校中が笑顔になった会となりました。

校内だけではなく、地域・保護者の皆様にも子供たちの健康・笑顔のために、分散登校中に街頭指導をしてくださったり、「新しい学校生活様式」への御協力をしてくださったりと、本当にありがとうございました。



そして、9月には「新しい生活様式のもと」運動会が開催されました。運動会については、年度当初には開催が危ぶまれましたが、これまでに身に付けてきたコロナ対策を駆使し、保護者・地域の皆様の御理解を得る中で開催することができました。

10月には、感染予防対策やガイドラインを示し、修学旅行、林間学校、校外学習を実施することができました。

今後学校では、感染予防対策をしっかりと行いながら、例年通りにできないことをチャンスととらえ、コロナ渦だからこそできることにチャレンジしていきたいと思えます。

地域・保護者の皆様におかれましても、子供たちの元気・笑顔のために変わらぬ御支援御協力をお願いいたします。

呼んでいる 胸のどこか奥で
いつも何度でも 夢を描こう
かなしみの数を 言い尽くすより
同じくちびるで そっと歌おう
閉じていく思い出の そのなかにいつも
忘れたくない ささやきを聞く
こなごなに砕かれた 鏡の上にも
新しい景色が 映される
はじまりの朝の 静かな窓
ゼロになるからだ 充(み)たされてゆけ
海の彼方(かなた)には もう探さない
輝くものは いつもここに
わたしのなかに 見つけれられたから
(「いつも何度でも」 覚和歌子作詞より)

.....学校の様子より.....

修学旅行(10月7日~8日)6年生



10月7日、8日の一泊二日で、静岡方面へ修学旅行に行ってきました。1日目は「富士山本宮浅間大社」「久能山東照宮」「登呂博物館」「静岡科学館るくる」(「みる」「きく」「さわる」=るくる)では体験しながら科学について学びました。

2日目は、「静岡県立地震防災センター」「三保の松原」「富士サファリパーク」に行ってきました。

コロナ禍で、いつもの年とは違う形の修学旅行となりましたが、修学旅行のめあて「コロナ対策をしながら、安全で楽しい修学旅行にしよう」を見事に達成し、小学校の思い出に残る2日間となりました。

秋季校外指導（秋の遠足）（10月13日）3・4年生



10月13日（火）に、3・4年生が秋季校外指導（秋の遠足）に出かけました。前日までは天候があまり良くなかったので心配していましたが、当日は良い天気に恵まれ実施できました。

学校から富士急行線の赤坂駅まで歩き、禾生駅まで電車に乗りました。禾生駅からは二かせぎ公園、リニア見学センターを見学し、尾県郷土資料館でお弁当を食べました。午後から郷土資料館を見学し、田野倉駅から電車に乗り、学校へ帰ってきました。この学習を通して、3・4年生は体験的な学習と仲間との交流を楽しむことができました。

音読発表会（10月16日）2年生



2年生が1年生を招待して、「音読発表会」をしました。本の名前は誰もが一度は読んだことのあるアーノルド＝ローベル『ふたりはともだち』の中に納められている「お手紙」です。

このお話は、国語の教科書に採用されたことで、今では多くの子どもたちに知られているお話です。いずれ届くことも、その内容までもわかっているお手紙をじっと待つがまくんとかえるくん。その幸せそうな様子に、「手紙」の持つ力を感じずにはいられませんね。2年生素晴らしい音読発表会をありがとうございました。『ふたりは・・・』のシリーズは、『ふたりはともだち』『ふたりはいっしょ』『ふたりはいつも』『ふたりはきょうも』などがあります。ぜひ御家庭でも読んでみてください。

秋季校外指導（秋の遠足）（10月20日）1・2年生



10月20日（火）に、1・2年生が秋季校外指導（秋の遠足）「宝の山ふれあいの里」に出かけました。前日までは雨が降っていたので、「あしたはどうか～」と心配でしたが、1年生、2年生のパワーででしょうか！当日はとっても良い天気に恵まれました。

2年生はこの遠足に向けて、「遠足実行委員会」を発足して、1年生を楽しくそして安全に引っ張って行くにはどうしたら良いか「めあて」や「きまり」などを決め、当日は、色ごとの班で1年生をしっかりサポートする2年生の姿がとても頼もしかったです。1年生は憧れの目で2年生を見ていました！

◎校長より～最近読んだ本から～

坂本光男さんという教育に携わる方の文章です。少し長いのですがその一節を紹介します。

○我が子を励ます最高の言葉

※高知県のあるお母さんは、あるとき三歳の子（男の子）に聞かれたそうです。

「お母さん、今までで一番うれしかったことは、なあに？」

保育園でお家のことを話し合うために。宿題が出されたのです。この質問にお母さんは、

「それは、あんたが生まれたことよ。」と何を意識するわけでもなく、ふつうに答えました。するとその子は母親の背中へ近づき、首のあたりにしがみつきました。そして黙ったまま、いつまでもじいっとしがみついていたというのです。

※静岡の海で漁をやっているお父さんは、小4の息子に聞かれました。

「お父さん、今日も海へ出るの？台風が来るってよ。大丈夫？」

息子がこんなことを聞くのは、初めてだったそうです。嬉しかったので

「だいじょうぶさ。大事に育てた息子が待っているんだ。死ぬわけがないだろう。」

と、答えました。すると息子は立ち上がって「ぜったいだよ。危ない時は、すぐ帰ってくるんだよ。」

と、力を込めて言ったというのです。

※富山県の中学2年生の女の子が『父よ、母よ』という文集にこんな言葉を書いていました。

「父よ、あなたは商売日本一。母よ、あなたの家事は日本一。私はあなたの子供で良かった。」やはり打てば響くのが、子供たちです。

いろいろ大変なこともあったけど、やはり生んで良かった。やっぱり育てて良かった。

***親子であるがゆえ、かえって伝えづらいことたくさんあるんですけどね・・・。(修)**

